



安小の四季

心ゆたかで 自ら学ぶ たくましい子の育成
～ 元気に登校 笑顔で下校 ～

第9号

令和3年9月29日

発行責任者 萩原 宏明

TEL 381-0215

見ていて、ほめて、認めて

子どもも大人も、人は誰でも「承認欲求」をもっています。「認められたい」「受け入れられたい」「ほめられたい」「すごいと言われたい」…、そんな気持ちをもっています。特に子どものうちはその気持ちが強く、だからこそ、人が見ているといつも以上に頑張るのです。



私たち大人が子どもたちのそんな気持ちを分かって、しっかり見て、ほめて、認めてあげることは、とても大切なことと思います。「ちゃんと見てくれている」「分かってくれている」…、そんな気持ちや体験が積み重なって、子どもたち自身の「自己肯定感」が高まっていくのだと思います。そして、更に良くなろうとする気持ちや、素直で真っ直ぐで強い心が育っていくのだと思います。

もちろん時には叱ることも必要ですが、叱ることが多過ぎると、いつかは効き目がなくなります。言葉には出さない子どもの気持ちも察して、認めていきたいと思っています。

* スローガン集会 *

「最後まであきらめない そこに勝利の花は咲く」

22日(水)に「スローガン集会」がありました。今年度のスポーツフェスのスローガンは上記のものです。「最後まであきらめない」、何事においても最も大切なことだと思います。子どもたちも、大切なことを分かってくれているんだなと思い、嬉しい気持ちになりました。

4人の団長さんからも、それぞれにあいさつがありました。カメラ越しでしたが、きちんと正面を見て立派なあいさつができていました。

当日に向けた練習も始まりました。ぜひ、励ましてあげてください。



界に浸るのが楽しいのですが、読書や読み聞かせには、たくさんの効果があるとされています。例えば…、

- 気持ちが落ち着いて穏やかになる
- 想像力が豊かになる
- 集中が長続きするようになる
- コミュニケーションスキルが高くなる
- 自己肯定感が高くなる
- 語彙力や読解力が自然と鍛えられる

どの学校にも図書室があるのは、そのためです。

本の中の文字や絵、読み聞かせの声から、お話の筋や場面、登場人物の気持ちなどを豊かに想像する(思い描く)ことが必要なのが、読書や読み聞かせです。

テレビや動画のように受け身ではなく、子どもたち自身が本の世界に自分から働きかけるところに大きな価値があると思います。



◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 読書の秋～心や頭を育てる～

朝晩はすっかり涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。秋は、なんとなく落ち着きます。

この時期、子どもたちにはじっくりと本を読んでほしいなあとと思っています。純粋に本の中の世

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ * 栄養士の交代について *

〇〇栄養士に代わり、10月1日より、〇〇〇〇栄養士が着任します。管理栄養士の資格もお持ちです。どうぞ、よろしくお願いたします。